

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート開成きらり		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ソーシャルスキルトレーニング ・運動トレーニング	・一人ひとりの特性あった個別指導	・研修参加によるスキルアップ ・
2	・委員会や研修の年間計画に基づいての実施	・計画的にできるように年間計画を立てて行う ・不参加者への議事録にて周知、押印	・出前講座や外部講師による研修参加
3	・各機関との連携	・学校や併用事業所、その他機関との支援会議や担当者会議にて情報共有の実施	・家庭、学校、他機関との情報共有をしっかりと行いながら支援に繋げる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家族に対しての家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報共有の機会が行われていることの不明さ。	・療育内容を伝えることはできているが、内容理解が伝わらないこともある。	・療育実践の写真等を活用して丁寧な説明ができるようにしていく。
2	・保護者会等の交流や家族支援がされているかの不明さ。	・今までがコロナ渦の為、控えていたこともあり未実施。	・年に数回でも保護者様も参加型できるイベントを計画していく。
3			

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハート開成きらり		公表日		R7年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・改善が必要な時は情報共有を図り環境整備している ・学習スペース活用できている	・支援スペースとしては狭く感じるため、空間を最大限生かせるように環境整備を行う
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・階段使用時は必ずスタッフ付き添う	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎朝、全員で15分掃除をしている ・衛生管理チェック表にて実施	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・ミーティングや支援会議にて意見交換を行っている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		・今後第三者評価について検討していく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・年間予定表に応じて実施	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1		・スタッフ全員がアセスメントについて理解を深める必要がある
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・計画書作成に伴いねらいや、目標支援内容を検討し個々に合わせるようにしている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・ミーティングにて連携	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	・支援終了後は送迎時間等で打合せが難しいため、次の日に共有を行っている	・その日に必要な共有事項については方法を検討する
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・自分で考えて行動できるように支援している。	
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・児発管参加実施
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3		・スタッフ間でも情報共有していく
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1		
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		・外部の研修等に参加していく
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	4	・児童館等活用している	・チャイルドハートグループでの交流を検討
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4		・協議会が開催される際は参加を行う
34		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6		・県等で主催の研修受講を検討
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	・今後、増やしていきたい	・感染症の時期が開催が難しい状況であったが、後は開催を予定している
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			

非常時等の対応	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		・インスタグラム活用	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		・地域の方との交流の機会を検討していきたい
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		・マニュアルの掲示 ・研修の実施	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・定期的な避難訓練等の実施	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・てんかん発作対象者の緊急対応についてマニュアル作成	・保護者様との連携を行う
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2		・現在医師の指示書がある児童はいない
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・安全計画の掲示 ・環境整備（衛生等チェック）	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハット案件の情報共有することで再発防止になっている。		
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				